TAJIMA

POLYMERIT

改質アスファルトシート防水　トーチ工法

ポリマリット防水

vol.54

時代のコンセンサスへ・・・トーチ工法

トーチ工法は、100年の歴史をもつ熱アスファルト防水を起源にしています。そして省力化・省資源化・環境問題など、今日的な問題にたいして、田島ルーフィングの明確な回答がトーチ工法です。すなわち、改質アスファルトのすぐれた耐候性や耐久性があって、トーチ工法が、はじめてアスファルト防水にならぶ防水工法に進化したのです。

トーチ工法の評価は、実績という形に姿を替えて、いまや官公庁の標準仕様にも採用され、民間においても数々の重要度の高い建物に使われています。

田島ルーフィングは、トーチ工法を含む改質アスファルト防水分野において、常にトップメーカーとしてのプライドを持ちつづけています。「さらに一歩前」を合い言葉に、豊富な経験とオリジナルな技術をトーチ工法に取り込んで、建築の分野のみならず、屋上緑化などにも果敢に取り組んでいきます。

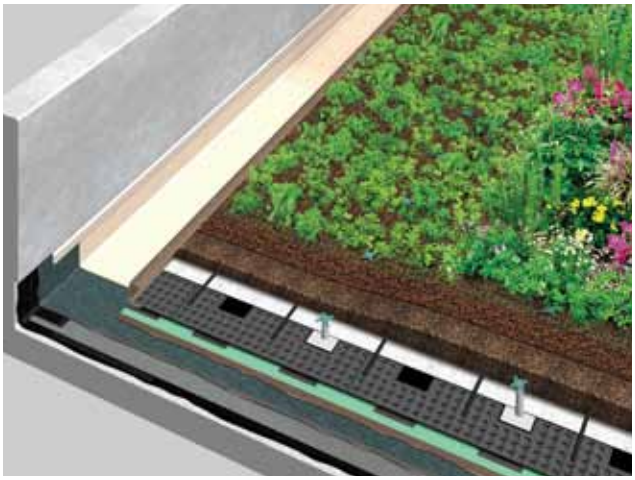
CONTENTS

仕様選択表…… 3 ～ 4
ポリマリット防水の主役たち…… 5 ～ 6
ＳＴ・ＭＴ工法の概要…… 7 ～ 8
Ｔ工法の概要…… 9 ～10
仕様表ＳＴ工法（新築・改修）…… 11～12
仕様表ＳＴ工法（改修）…… 13～14
仕様表ＭＴ・Ｔ工法…… 15～16
仕様表Ｔ工法…… 17～18
官公庁仕様…… 19～20
製品紹介…… 21～25
製品一覧表…… 26
施工法解説…… 27～29
施工工具…… 30
技術資料／露出防水における留意点…… 31～34

田島のトーチ…ポリマリット防水はオリジナルが中心

仕様選択表

種　別	工法名・解説ページ	工法概要	形　態	用　途	断　熱
オリジナル複層工法	ST工法 P7～P8	通気性のある第1層目ルーフィングを自着施工、第2層目はトーチ・オンの複合2層工法です。スピーディな施工で、防水層のフクレを防止します。 改修工事の場合、とくに劣化程度が悪くない限り、既存の防水層の上に新しいポリマリット防水を被せる「かぶせ工法」を選びます。その場合、既存防水の表面処理方法に違いがでます。既存防水層を撤去した場合は新築仕様を採用してください。	露出防水	新築・改修	○ ○ ○ ○
				改　修	
	MT工法 P7～P8	全面自着型の第1層目シートの上に、第2層目をバーナーで貼る、自着&トーチの複層工法です。工期短縮で、かつ高グレードの防水層が得られます。	押え	新築・改修	○
トーチ基本工法	T工法 P9～P10	第1層目はむろん、複層工法の第2層目もトーチ・オンのトーチ工法の基本形。バーナーにより十分に熱溶融することで、水密性に優れた防水層が得られます。	露出防水	新築・改修	
				改　修	
			押え	新築・改修	○



屋上緑化システムGウェイブをご検討される場合は、専用カタログ「グリーンルーフ・ストーリー・プラス」をご参照ください。
防水工法についてはご相談ください。

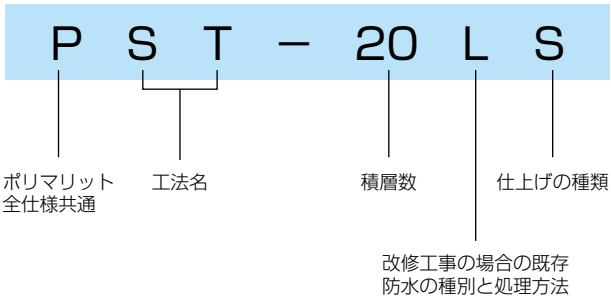
仕様番号	下　地	断熱材	層　数	表　面	仕上げ	仕様表ページ
PST−20C	コンクリートまたはモルタル	−	2層	スレート砂	保護塗料 SPファインカラー SPサーモコート SPミッドカラー SPクリーンカラー	P11〜P12
PST−20S		−	2層	細砂		
PST−300C		硬質ウレタンフォーム	防湿層+2層	スレート砂		
PST−300S		硬質ウレタンフォーム	防湿層+2層	細砂		
PST−200C		硬質ウレタンフォーム	2層	スレート砂		
PST−200S		硬質ウレタンフォーム	2層	細砂		
PST−20LC	砂付ルーフィング	−	2層	スレート砂		P13〜P14
PST−20LS	砂付ルーフィング	−	2層	細砂		
PST−20GC	合成高分子防水	−	2層	スレート砂		
PST−20GS	合成高分子防水	−	2層	細砂		
PMT−20A	コンクリートまたはモルタル	−	2層	絶縁クロス敷き	（押えコンクリート）	P15〜P16
PMT−200A		ポリスチレンフォーム	2層			
PT−20C	コンクリートまたはモルタル	−	2層	スレート砂	保護塗料 SPファインカラー SPサーモコート SPミッドカラー SPクリーンカラー	P17〜P18
PT−20S		−	2層	細砂		
PT−15C		−	穴あき+1層	スレート砂		
PT−15S		−	穴あき+1層	細砂		
PT−10C		−	1層	スレート砂		
PT−10S		−	1層	細砂		
PT−10LC	砂付ルーフィング	−	1層	スレート砂	保護塗料	P17〜P18
PT−10LS		−	1層	細砂		
PT−20A	コンクリートまたはモルタル	−	2層	絶縁クロス敷き	（押えコンクリート）	P15〜P16
PT−200A		ポリスチレンフォーム	2層			

（　　）別途費用

仕様番号の意味

共通タイトル	P	ポリマリット防水
工　法　名	ST	ストライプ型自着+トーチ･オン
	MT	全面自着+トーチ･オン
	T	トーチ･オン
積　層　数	10	1層
	15	穴あきルーフィング+1層
	20	2層
	200	断熱工法2層
	300	防湿層つき断熱工法2層
改修工事の場合（既存防水種別と処理方法）	L	アスファルト露出+リベース
	G	合成高分子露出+各種プライマー（p.13参照）
仕上げの種類	C	スレート砂仕上げ
	S	細砂仕上げ
	A	別途押え材使用

仕様番号の見かた



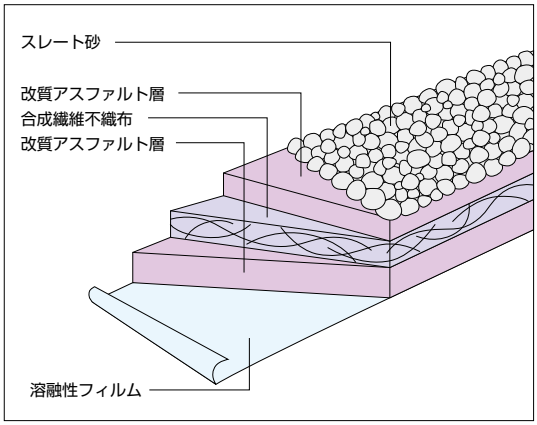
ポリマリット

改質アスファルトシートは、基材となる合成繊維不織布に、高品質改質アスファルトを含浸・コーティングしたスーパールーフィングシートです。
この強靱な基材と改質アスファルトが、優れた防水性能を発揮するとともに、高い耐久性と、防水施工における省層化・省力化に貢献しています。
従来、キャップシートといえば砂付仕上げが当たりまえ。改質アスファルトの秀でた耐久性は、露出防水の表面に、必ずしも砂付仕上げを必要としなくなりました。
細砂状の鉱物質粉粒に覆われたフラットな仕上げは、多様な塗料仕上げを可能にしました。
常に過酷な外気にさらされる上層用改質アスファルトシートは、まさにトーチ工法の主役です。

防水の主役たち

JIS A 6013
露出単層
R種・Ⅱ類

●ポリマリットキャップ　規格　4.0㎜厚　1×8m巻

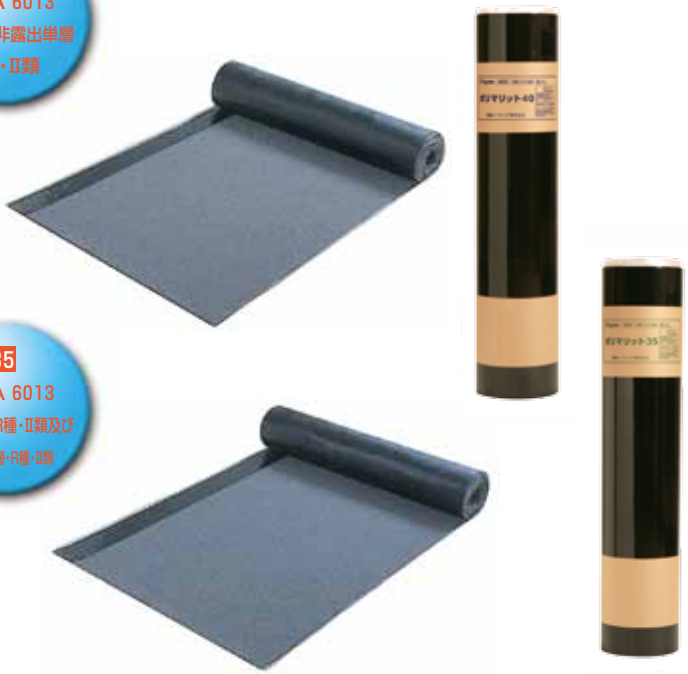


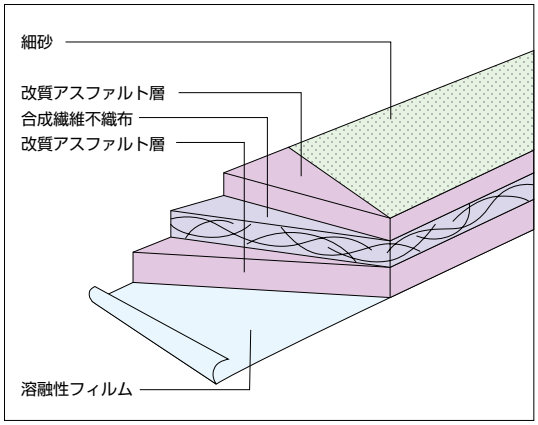
表面に天然スレート砂を圧着した、砂付きタイプの仕上げ用シートです。
表面の砂は、防水層の紫外線劣化防止などに有効なほか、自然でやわらかい仕上り感も演出する、露出防水の定番キャップシートです。

40
JIS A 6013
露出及び非露出単層
R種・Ⅱ類

35
JIS A 6013
露出複層・R種・Ⅱ類及び
非露出単層・R種・Ⅱ類

●ポリマリット40　規格　4.0㎜厚　1×8m巻
●ポリマリット35　規格　3.5㎜厚　1×8m巻



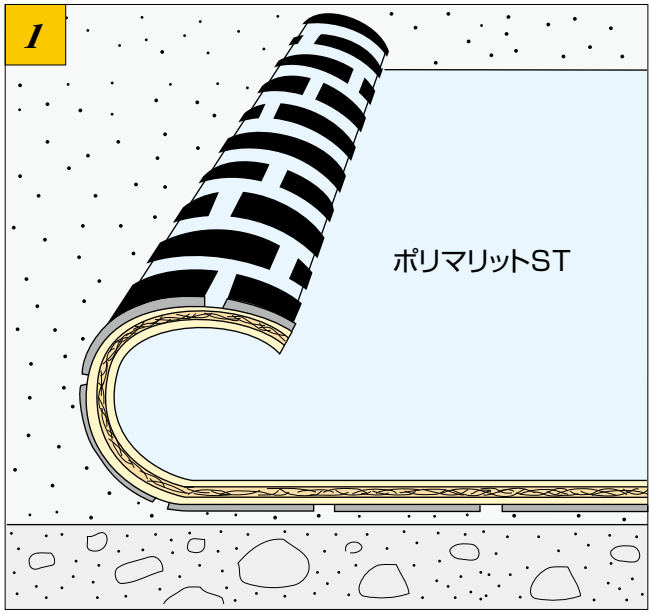


表面に細砂を用いた、フラット表面タイプのシートで、露出防水、押え防水に用います。
露出防水の場合は、保護塗料を塗布します。

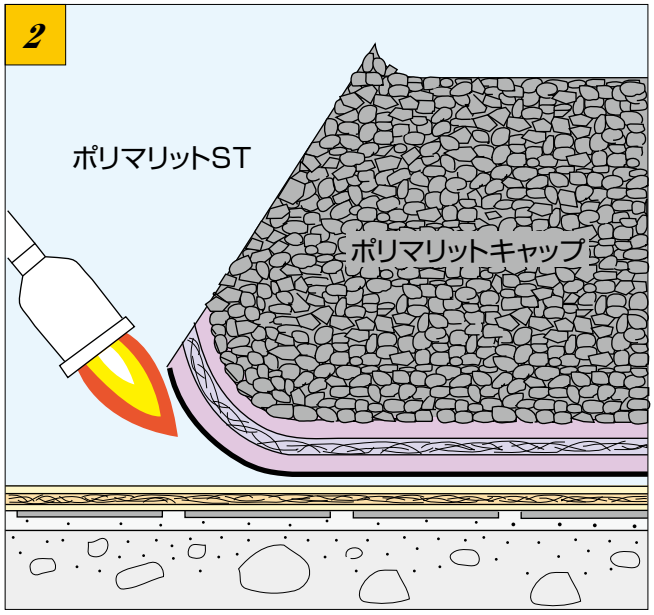
オリジナル ST・MT工法の概要

トーチ工法では、ていねいな施工であれば、1層のシートを貼るだけで、水密性を得ることができます。しかし、より高い防水性能が求められるときは、シートの層数を増やして、機能面の充実を図りたいものです。
ポリマリットST・MT工法は、1層目に特殊な粘着層をもったシートを用い、バーナーによるトーチ・オン工程を省こうという工法です。
2層目シートをトーチ・オンする際の加熱により、1層目シートの接着性および水密性が同時に得られる、粘着&ワントーチの2層工法です。
ST工法は、ストライプ状に断続した粘着層をもった通気用シートを、MT工法は、全面に粘着層をもった密着用シートを、それぞれ下貼りにします。
工期の短縮、安全性の向上などに効果があります。

■ST・MT工法のしくみ

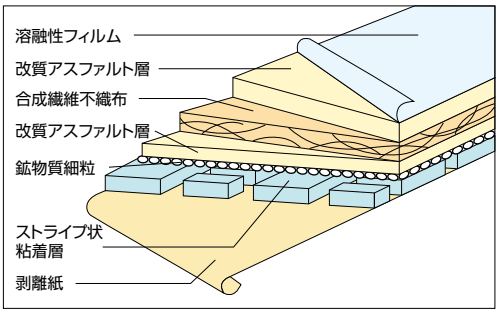


下貼り用のポリマリットST、またはGLの剥離紙を剥して下地に貼りつけます。
この際、バーナーなどによる火気は用いません。



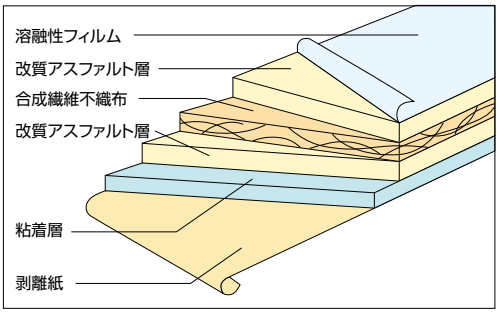
バーナーを用いて2層目のポリマリットキャップ、またはポリマリット40・35を貼りつけます。

●ポリマリットST　　規格　　2.3㎜厚　1×8m巻



ポリマリットSTは、表面に特殊プラスチックフィルムを施した、改質アスファルトシートです。
また裏面には通気を目的として、粘着用ゴムアス層をストライプ状に配しています。
トーチ工法2層仕様の、絶縁通気用下貼シートです。
（厚さは粘着層を含みません。）

●ポリマリットGL　　規格　　2.0㎜厚　1×8m巻

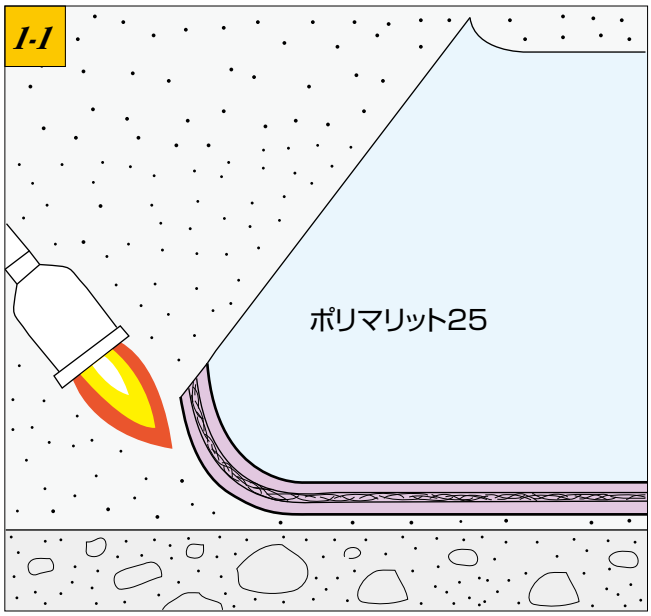


ポリマリットGLは、改質アスファルトシートの表面に特殊プラスチックフィルムを施し、裏面には粘着用ゴムアス層を全面に配しています。
トーチ工法2層仕様の、密着用下貼シートです。

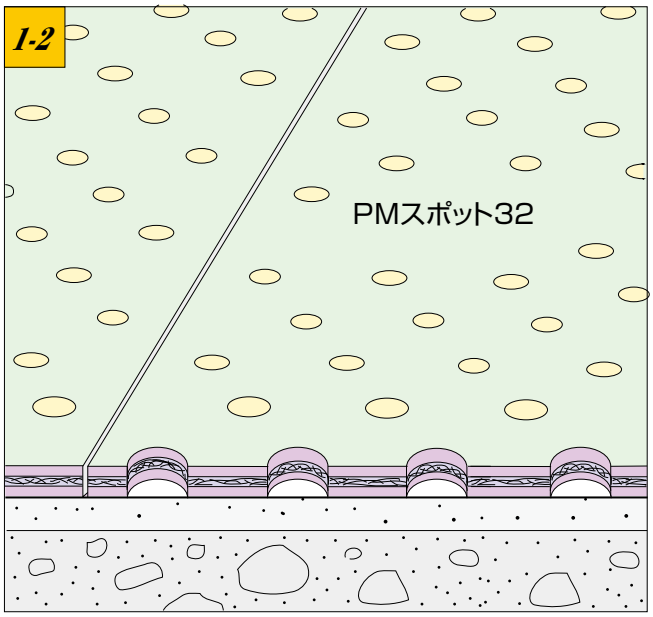
下貼り専用シートとＴ工法の概要

トーチ工法は、改質アスファルトシートの表面を高温のバーナーで瞬間に溶解し、下地やシートを相互に貼りつける工法です。
溶解した改質アスファルトが、すき間なく下地や下層のシートとの間を充填し、密着しますから、高い水密性を得ることができます。
下地精度が良く、乾燥した下地には、最も適した工法です。また小面積や複雑な形状の屋根では、施工の簡便性が発揮されます。
Ｔ工法は改質アスファルト１層、または2層のシートをトーチ・オンにより貼りつける工法と、部分接着用の穴あきシートを用いた部分接着工法があります。
いずれもトーチ工法の基本形で、実績のある工法です。

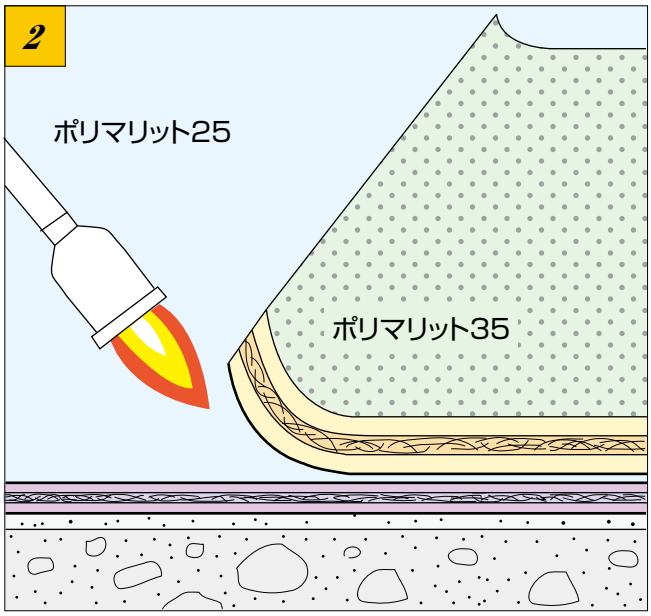
■Ｔ工法のしくみ



2層工法の場合は、下貼り用のポリマリット25を、全面トーチ・オンにより下地に貼りつけます。



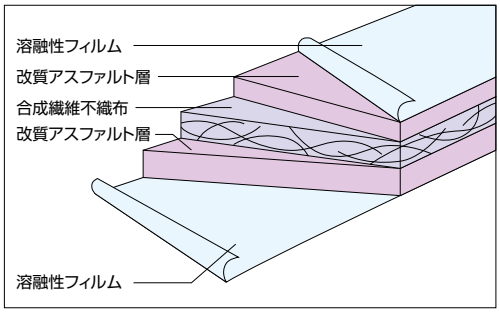
部分接着工法の場合は、穴あき改質アスファルトシート、PMスポット32を置き敷きします。シート相互のジョイント部はラップせず、突きつけ施工とします。



バーナーを用いて2層目のポリマリットキャップ、またはポリマリット35を貼りつけます。
部分接着工法の場合は、この溶解アスファルトがPMスポット32の穴に流れ込み、結果的に表層ルーフィングは下地と部分接着された形になります。

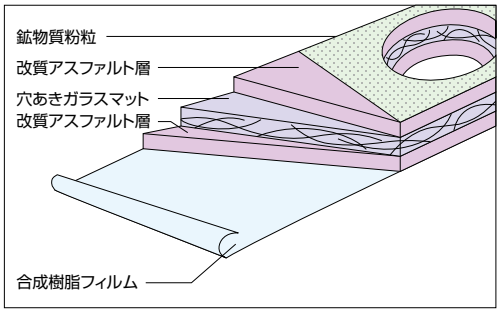
●ポリマリット25　　規格　　2.5㎜厚　1×8m巻

JIS A 6013
非露出複層
R種・Ⅱ類



2層工法に用いる下貼り、および立上り部専用の改質アスファルトシートです。
下地になじみが良く、表層シートの仕上り感をよくするため、薄手につくられています。

●PMスポット32　　規格　　0.8㎜厚　1×32m巻



PMスポット32は、部分接着工法の下貼材として用いられる、ポリマリット専用の穴あきシートです。
穴の部分は溶融した改質アスファルトで充填されるため、防水層は、ほぼ2層に相当する機能を得ることができます。

ポリマリットST工法（ストライプ自着&ワントーチ・オン工法）

[新築・改修（撤去工法）] 露出

	1	2	3
PST−20C	水性プライマーAS	ポリマリットST	ポリマリットキャップ
PST−20S	水性プライマーAS	ポリマリットST	ポリマリット35

立上り部仕様	1	2	3
PST−20C	水性プライマーAS	ポリマリットGL	ポリマリットキャップ
PST−20S			ポリマリット35

[新築・改修（撤去工法）] 断熱露出

	1	2	3
PST−300C	水性プライマーAS	ダンパーシート	ギルフォームS
PST−300S	水性プライマーAS	ダンパーシート	ギルフォームS
PST−200C	水性プライマーAS	レイコーセメント（点貼り）0.8kg	ギルフォームS
PST−200S	水性プライマーAS	レイコーセメント（点貼り）0.8kg	ギルフォームS

立上り部仕様	1	2	3
PST−300C・200C	水性プライマーAS	ポリマリットGL	ポリマリットキャップ
PST−300S・200S			ポリマリット40

Attention

注１ プライマーなどの下地処理材は、表面の乾きを確認したのち、次工程に移行してください。
季節・立地条件によって、水性プライマーASのかわりにアスファルトプライマー、アスファルトプライマーSS等を用いることもあります。

注２ 脱気は屋根使用上の障害とならない限り平面脱気方式とし、ステンレスベーパスを用います。（価格別途）

注３ ポリマリットSTは貼りつけ後、ローラーなどを用いて充分に転圧します。
冬季、または寒冷地の施工では、バーナーを併用してください。

注４ 保護塗料は仕様表内の4種に加え、SPマルチカラーも使用できます（ただし、断熱工法は使用不可）。
価格は種類によって異なります。

注５ 保護塗料は定期的に塗り替えることをお勧めします。塗料により塗り替えサイクルが異なるのでご相談ください。

注６ ポリマリットキャップ、ポリマリット 35・40 は、平面部または立上り部どちらを先に施工してもかまいません。

ポリマリット防水の仕様
オリジナル複層工法　— 露出・断熱露出 —

4

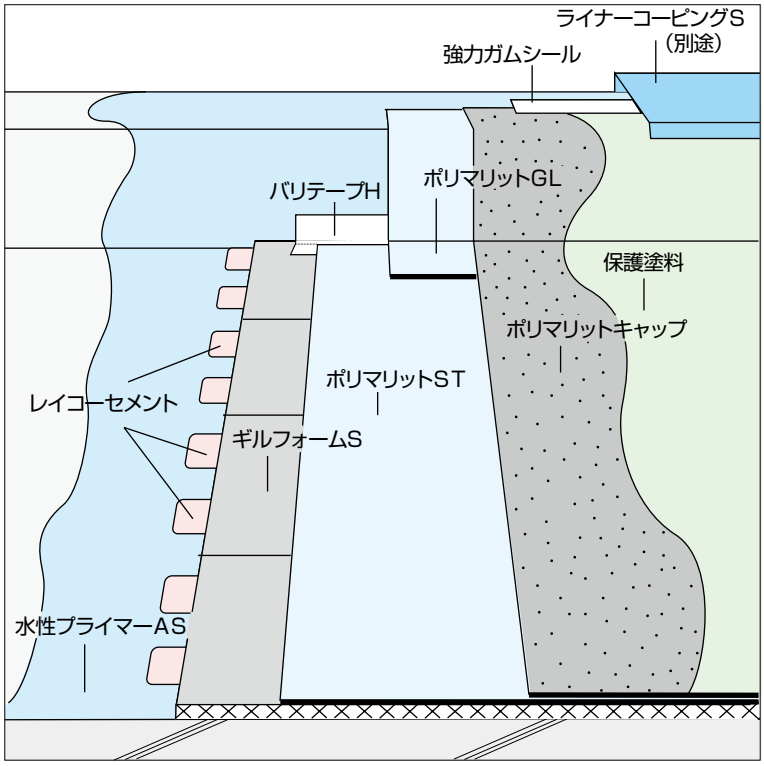
保護塗料
SPファインカラー
SPサーモコート
SPミッドカラー
SPクリーンカラー

4
保護塗料

4	3	3
ポリマリットST	ポリマリットキャップ	**保護塗料** SPファインカラー SPサーモコート SPミッドカラー SPクリーンカラー ●防水層の熱的保護のためには、SPサーモコートの採用が理想的です。
ポリマリットST	ポリマリット40	
ポリマリットST	ポリマリットキャップ	
ポリマリットST	ポリマリット40	

*立上りコーナー部には、バーナーの火が入らないようバリテープHを増し貼りします。
*断熱材の厚みは選択できます。（価格増減）

4
保護塗料



施工図例　PST−200C　ギルフォーム

ポリマリットST工法（ストライプ自着&ワントーチ・オン工法）

＊改修工事で断熱工法を検討の際は、ご相談ください。
＊押えコンクリートを撤去しない改修工事仕様は、P11・12のPST−20C・20Sです。

[改修] 砂付ルーフィング下地 露出

	1	2	3
PST−20LC	リベース	ポリマリットST	ポリマリットキャップ
PST−20LS	リベース	ポリマリットST	ポリマリット35

[改修] 高分子系下地 露出

	1	2	3
PST−20GC	各種プライマー※	ポリマリットST	ポリマリットキャップ
PST−20GS	各種プライマー※	ポリマリットST	ポリマリット35

※既存ウレタン塗膜：OTプライマーA／既存加硫ゴムシート：水性プライマーAS／既存塩ビシート：VTプライマー+OTプライマーM

立上り部仕様	1	2	3
PST−20LC・20GC	水性プライマーAS	ポリマリットGL	ポリマリットキャップ
PST−20LS・20GS			ポリマリット35

Attention

注１ プライマーなどの下地処理材は、表面の乾きを確認したのち、次工程に移行してください。
季節・立地条件によって、水性プライマーASのかわりにアスファルトプライマー、アスファルトプライマーSS等を用いることもあります。

注２ ポリマリットSTは貼りつけ後、ローラーなどを用いて充分に転圧します。冬季、寒冷地の施工では、バーナーを併用してください。

注３ 保護塗料は仕様表内の４種類に加え、SPマルチカラーも使用できます。価格は種類によって異なります。

注４ 保護塗料は定期的に塗り替えることをお勧めします。塗料により塗り替えサイクルが異なるのでご相談ください。

注５ 改修工事の場合、既存下地の処理・乾燥は完全に行います。

注６ 既存露出防水の立上り部は原則として撤去します。

注７ 劣化が激しく、既存防水層を全面撤去した場合は、P11・12の新築仕様を参照ください。（下地処理注意）

注８ 既存防水が、塩ビシート絶縁工法の場合は、本工法は採用できません。

注９ ポリマリットキャップ、ポリマリット35は、平面部または立上り部どちらを先に施工してもかまいません。

ポリマリット防水の仕様
改修用　オリジナル複層工法　— 露出 —

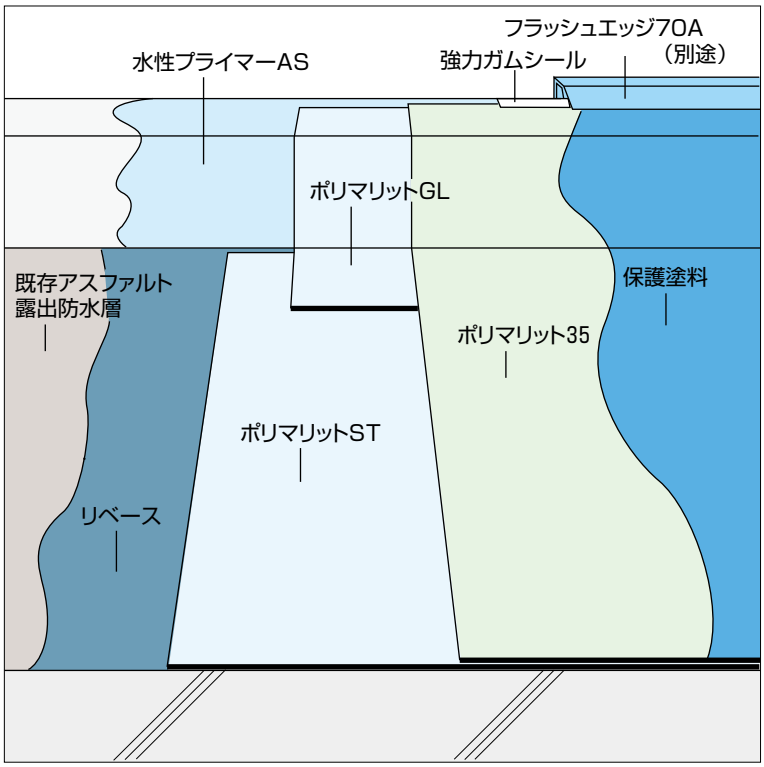
4

保護塗料
SPファインカラー
SPサーモコート
SPミッドカラー
SPクリーンカラー

4

保護塗料
SPファインカラー
SPサーモコート
SPミッドカラー
SPクリーンカラー

4
保護塗料



施工図例　PST—20LS

ポリマリットMT工法（全面自着&ワントーチ・オン工法）
ポリマリットT工法（トーチ・オン工法）

[新築] 押え（室内など）

	1	2	3	
PMT−20A	水性プライマーAS	ポリマリットGL	ポリマリット25	

[新築] 押え断熱

	1	2	3	
PMT−200A	水性プライマーAS	ポリマリットGL	ポリマリット25	RB スタ

立上り部仕様	1	2	3	
PMT−20A・200A	水性プライマーAS	ポリマリットGL	ポリマリット25	

[新築・改修（撤去工法）] 押え

	1	2	3	
PT−20A	水性プライマーAS	ポリマリット25	ポリマリット25	絶

[新築・改修（撤去工法）] 押え断熱

	1	2	3	
PT−200A	水性プライマーAS	ポリマリット25	ポリマリット25	RB スタ

立上り部仕様	1	2	3	
PT−20A・200A	水性プライマーAS	ポリマリット25	ポリマリット25	

ポリマリット防水の仕様
オリジナル複層工法と、一般トーチ工法　— 押え・断熱押え —

4	5
絶縁クロス1000	押え（別途）

4	5	6
ボード または イロフォームRB-GK-Ⅱ	絶縁クロス1000	押え（別途）

＊断熱材の防水層への接着は、RBセメント（0.5kg／㎡）にて点貼りします。絶縁クロス1000はRBセメントで点付けします。
＊断熱材の厚みは選択できます。（価格増減）

4
押え（別途）

4	5
縁クロス1000	押え（別途）

4	5	6
ボード または イロフォームRB-GK-Ⅱ	絶縁クロス1000	押え（別途）

＊断熱材の防水層への接着は、RBセメント（0.5kg／㎡）にて点貼りします。絶縁クロス1000はRBセメントで点付けします。
＊断熱材の厚みは選択できます。（価格増減）

4
押え（別途）

Attention

注１ プライマーなどの下地処理材は、表面の乾きを確認したのち、次工程に移行してください。
季節・立地条件によって、水性プライマーASのかわりにアスファルトプライマー、アスファルトプライマーSS等を用いることもあります。

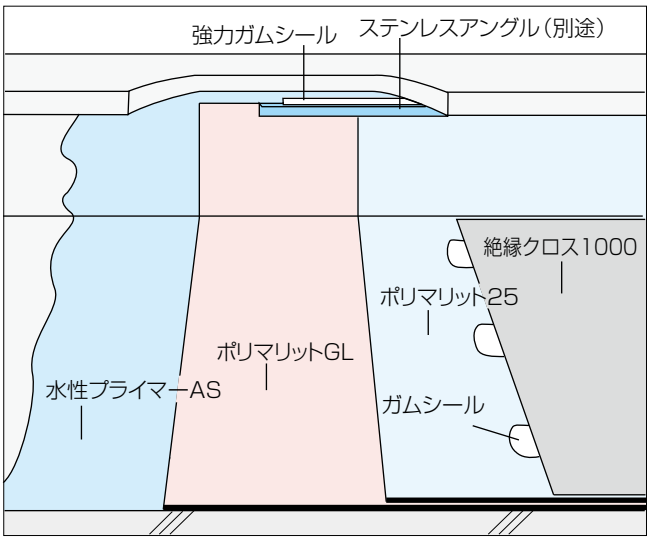
注２ ポリマリットGLは、下地との間に空げきが残らないよう貼りつけ、充分に転圧します。

注３ 絶縁クロス1000が飛散しないよう、強力ガムシール（断熱材上はRBセメント）を点づけして固定します。

注４ 改修工事の場合、立上り部防水層は原則として撤去します。

注５ ポリマリット 25・35 は、平面部または立上り部どちらを先に施工してもかまいません。

注６ ポリマリットＧＬは、平面部を先に施工します。



施工図例　PMT−20A

ポリマリットT工法（トーチ・オン工法）

[新築・改修（撤去工法）] 露出

	1	2	3
PT−20C	水性プライマーAS	ポリマリット25	ポリマリットキャップ
PT−20S	水性プライマーAS	ポリマリット25	ポリマリット35
PT−15C	水性プライマーAS	PMスポット32	ポリマリットキャップ
PT−15S	水性プライマーAS	PMスポット32	ポリマリット40
PT−10C	水性プライマーAS	ポリマリットキャップ	
PT−10S	水性プライマーAS	ポリマリット40	

[改修（かぶせ工法）] 露出
砂付ルーフィング下地

	1	2	3
PT−10LC	リベース	ポリマリットキャップ	保護塗料 SPファインカラー SPサーモコート SPミッドカラー SPクリーンカラー
PT−10LS	リベース	ポリマリット40	

立上り部仕様	1	2	3
PT−20C	水性プライマーAS	ポリマリット25	ポリマリットキャップ
PT−20S			ポリマリット35
PT−15C	水性プライマーAS	（コーナー部）GLテープ	ポリマリットキャップ
PT−15S			ポリマリット40
PT−10C・10LC	水性プライマーAS	（コーナー部）GLテープ	ポリマリットキャップ
PT−10S・10LS			ポリマリット40

ポリマリット防水の仕様
一般トーチ工法　— 露出 —

4

保護塗料

SPファインカラー
SPサーモコート
SPミッドカラー
SPクリーンカラー

4
保護塗料
保護塗料
保護塗料

Attention

注１ プライマーなどの下地処理材は、表面の乾きを確認したのち、次工程に移行してください。
季節・立地条件によって、水性プライマーASのかわりにアスファルトプライマー、アスファルトプライマーSS等を用いることもあります。

注２ 脱気は屋根使用上の障害とならない限り、平面脱気方式とし、ステンレスベーパスを用います。（価格別途）

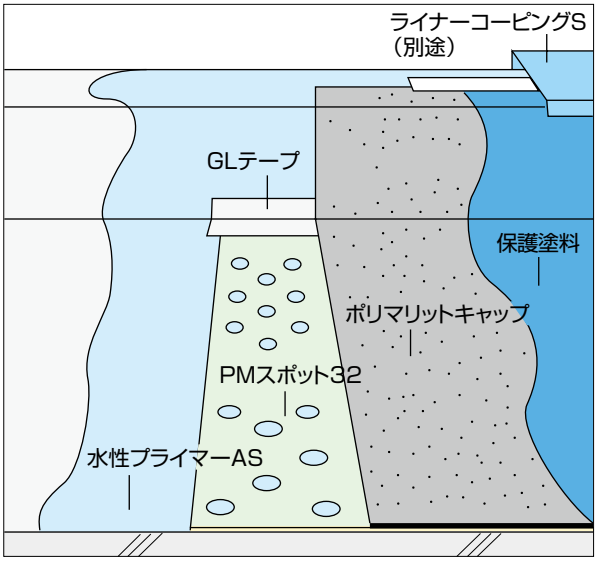
注３ PMスポット32は突きつけ施工とし、通気のためピース（短尺）を入れます。

注４ 保護塗料は仕様表内の４種類に加え、SPマルチカラーも使用できます。価格は種類によって異なります。

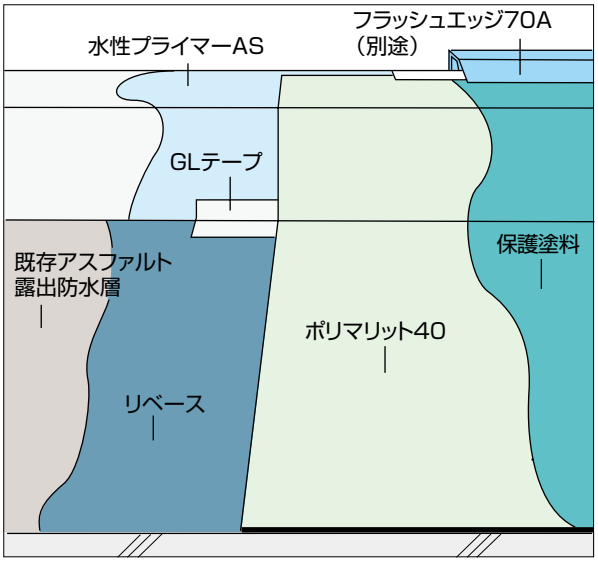
注５ 保護塗料は定期的に塗り替えることをお勧めします。塗料により塗り替えサイクルが異なるのでご相談ください。

注６ 改修工事の注意事項は13ページをご参照ください。

注７ ポリマリットキャップ、ポリマリット 35・40 は、平面部または立上り部どちらを先に施工してもかまいません。



施工図例　PT－15C



施工図例　PT－10LS

官公庁仕様

●国土交通省公共建築工事標準仕様書（平成31年版）
●国土交通省公共建築改修工事標準仕様書（平成31年版）

種　別	1 ※2	2	3	4
AS−T1（トーチ工法）	プライマー塗り	改質アスファルトシート（非露出複層防水用R種,2.5mm以上）	改質アスファルトシート（露出複層防水用R種,3.0mm以上）	仕上げ塗料塗り
使用量（kg/㎡）	0.2（0.4）※1	—	—	—
ポリマリット防水対応製品名	水性プライマーAS	ポリマリット25	ポリマリットキャップ またはポリマリット35	SPファインカラー等

種　別	1 ※2	2	3
AS−T2（トーチ工法）	プライマー塗り	改質アスファルトシート（露出単層防水用R種,4.0mm以上）	仕上げ塗料塗り
使用量（kg/㎡）	0.2（0.4）※1	—	—
ポリマリット防水対応製品名	水性プライマーAS	ポリマリットキャップ またはポリマリット40	SPファインカラー等

種　別	1	2	3	4
AS−T3（トーチ工法）	プライマー塗り	部分粘着層付き改質アスファルトシート（非露出複層防水用R種,1.5mm以上）	改質アスファルトシート（露出複層防水用R種,3.0mm以上）	仕上げ塗料塗り
使用量（kg/㎡）	0.2（0.4）※1	—	—	—
ポリマリット防水対応製品名	水性プライマーAS	ポリマリットST ※3,4（立上り：ポリマリット25）	ポリマリットキャップ またはポリマリット35	SPファインカラー等

種　別	1	2	3	4
AS−T4（トーチ工法）	プライマー塗り	あなあきシート	改質アスファルトシート（露出単層防水用R種,4.0mm以上）	仕上げ塗料塗り
使用量（kg/㎡）	0.2（0.4）※1	—	—	—
ポリマリット防水対応製品名	水性プライマーAS	PMスポット32 ※5,6	ポリマリットキャップ またはポリマリット40	SPファインカラー等

種　別	1 ※2	2	3	4	5
ASI−T1（トーチ工法）	プライマー塗り	断熱材張付け	部分粘着層付き改質アスファルトシート（非露出複層防水用R種,1.5mm以上）	改質アスファルトシート（露出複層防水用R種,3.0mm以上）	仕上げ塗料塗り
使用量（kg/㎡）	0.2（0.4）※1	—	—	—	—
ポリマリット防水対応製品名	水性プライマーAS	ギルフォームS（レイコーセメントにより張付け）	ポリマリットST ※7（立上り：ポリマリット25）	ポリマリットキャップ またはポリマリット35	SPファインカラー等

※1 ＡＬＣパネルの場合は、工程１を（）内とする。　※2 下地が既存防水層の場合は、工程１を省略する。（改修仕様のみ）　※3 立上りは、工程２を改質アスファルトシート非露出複層防水用Ｒ種 2.5mm 以上（ポリマリット 25）とする。　※4 部分的に溶着させる場合は、工程２を改質アスファルトシート非露出複層防水用Ｒ種 2.5mm 以上（ポリマリット 25）とする。　※5 立上り部はあなあきシートを省略する。　※6 部分的に溶着させる場合は、工程２を省略する。　※7 立上りは、工程３を非露出複層防水用Ｒ種 2.5mm 以上（ポリマリット２５）とする。　＊水性プライマー AS は、冬季の施工や、乾燥を急ぐ場合は、アスファルトプライマー、およびアスファルトプライマー SS 等に変更できる。　＊仕上塗料は、SP ファインカラーのほかに SP サーモコート、SP ミッドカラー、SP クリーンカラー、SP マルチカラーなどがあります。　＊仕上塗料の使用量は、特記によります。　＊ ASI-T1 における防湿層の設置は特記による。（防湿層にはダンパーシートを用い、レイコーセメントは省略する）

●公共住宅建設工事共通仕様書　平成28年版

公共住宅建設工事共通仕様書は、国土交通省公共建築工事標準仕様書と同じ仕様に独自仕様が加えられた構成です。
国土交通省公共建築工事標準仕様書の仕様につきましては、上記をご参照ください。以下に公共住宅建設工事共通仕様書の独自仕様のみ記載しました。

改質アスファルトシート防水

屋根保護防水層密着工法（トーチ工法）

	1	2	3	4	5
工　程	プライマー塗り	改質アスファルトシート（非露出複層防水用R種、2.5mm以上）トーチバーナーによる張り付け	改質アスファルトシート（非露出複層防水用R種、2.5mm以上）トーチバーナーによる張り付け	絶縁用シート ※1	保護コンクリート ※2
使用量（kg/㎡）	0.2	—	—	—	—
材　料	アスファルトプライマー	ポリマリット 25	ポリマリット 25	絶縁シート	—

※1 立上り部は断熱材及び絶縁シートを省略する。　※2 保護コンクリートには溶接金物を敷き込む。

屋根保護防水層密着断熱工法（トーチ工法）

	1	2	3	4	5	6
工　程	プライマー塗り	改質アスファルトシート（非露出複層防水用R種、2.5mm以上）トーチバーナーによる張り付け	改質アスファルトシート（非露出複層防水用R種、2.5mm以上）トーチバーナーによる張り付け	断熱材 ※1	絶縁用シート ※1	保護コンクリート ※2
使用量（kg/㎡）	0.2	—	—	—	—	
材　料	アスファルトプライマー	ポリマリット 25	ポリマリット 25	RBボードまたは スタイロフォームRB-GK-Ⅱ	絶縁クロス1000	—

※1 立上り部は断熱材及び絶縁シートを省略する。　※2 保護コンクリートには溶接金物を敷き込む。

●日本建築学会（建築工事標準仕様書　JASS8　2014年版）

<table>
<tr><th>種　別</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>保護・仕上げ</th><th>4</th><th>5</th></tr>
<tr><td rowspan="2">AT−PF
（密着・保護）</td><td rowspan="2">プライマー塗り</td><td rowspan="2">改質アスファルトシート
（非露出複層防水用
厚さ 2.5mm以上）</td><td rowspan="2">改質アスファルトシート
（非露出複層防水用
厚さ 2.5mm以上）</td><td rowspan="2">現場打ち
コンクリート</td><td>絶縁用シート
の敷込み</td><td>—</td></tr>
<tr><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="2">使用量（kg/㎡）</td><td rowspan="2">0.2</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">断熱工法</td><td>断熱材用接着剤
による断熱材の張付け</td><td>絶縁用シート
の敷込み</td></tr>
<tr><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ポリマリット防水
対応製品名</td><td rowspan="2">水性プライマーAS</td><td rowspan="2">ポリマリット 25</td><td rowspan="2">ポリマリット 25</td><td>現場打ち
コンクリート</td><td>絶縁シートまたは
絶縁クロス 1000
（強力ガムシール点付け）</td><td></td></tr>
<tr><td>断熱工法</td><td>RBボードまたは
スタイロフォームRB-GK-Ⅱ</td><td>絶縁クロス 1000</td></tr>
</table>

※立ち上がりは工程３までとする。

＊断熱材の防水層への接着は、RBセメント（0.5kg／㎡）にて点貼りします。絶縁クロス1000はRBセメントで点付けします。
＊断熱材の厚みは選択できます。（価格増減）

種　別	1	2	3
AT−MF （密着・露出）	プライマー塗り	改質アスファルトシート （露出単層防水用 厚さ 4.0mm以上）	仕上げ塗料塗り またはなし
使用量（kg/㎡）	0.2（0.4）※1	—	—
ポリマリット防水 対応製品名	水性プライマーAS	ポリマリットキャップ またはポリマリット40	（SPファインカラー等）

※１ ALCパネルの場合は、プライマーは 0.4kg/㎡とする。

種　別	1	2		3	4	5
AT−MT （密着・露出・断熱）	プライマー塗り	断熱材張付け		部分粘着層付 改質アスファルトシート （非露出複層防水用 厚さ 1.5mm以上）	改質アスファルトシート （露出複層防水用 厚さ 3.0mm以上）	仕上げ塗料塗り またはなし
使用量（kg/㎡）	0.2（0.4）※1	—		—	—	—
ポリマリット防水 対応製品名	水性プライマーAS	レイコーセメント 0.8	ギルフォームS	ポリマリットST	ポリマリットキャップ またはポリマリット 40・35	（SPファインカラー等）

※１ ALCパネルの場合は、プライマーは 0.4kg/㎡とする。

種　別	1	2	3	4
AT−MT 立上り	プライマー塗り	改質アスファルトシート （非露出複層防水用 厚さ 2.5mm以上）	改質アスファルトシート （露出複層防水用 厚さ 3.0mm以上）	仕上げ塗料塗り またはなし
使用量（kg/㎡）	0.2（0.4）※1	—	—	—
ポリマリット防水 対応製品名	水性プライマーAS	ポリマリット 25	ポリマリットキャップ またはポリマリット 40・35	（SPファインカラー等）

※１ ALCパネルの場合は、プライマーは 0.4kg/㎡とする。

Constructional instance

施工事例

残念ですが･･･ポリマリットは空からしか見られません。
防水は建物の最上階のその上、ヘリコプターにでも乗らない限り、その姿を見ることができません。
しかし、雨漏りが無い快適な暮らしを通じ、あなたはポリマリット防水と、もう顔なじみです。

Although we're very sorry ... POLYMERIT is seen only from the sky.
Because a waterproofing is above on the highest story of a building, the sight is not caught unless you ride on a helicopter.
However, you are already familiar with POLYMERIT through the comfortable life without leak in the roof.

ポリマリット防水の副資材

■防湿シート

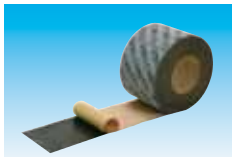
●ダンパーシート（1m× 32m）

断熱材ギルフォームを下地と接着させるための専用防湿シートです。特殊なプラスチックフィルムの両面に、ゴムアス自着層をコーティングしていますので、優れた透湿抵抗性を発揮します。
裏面の自着層は水蒸気の通気路として、断続したストライプ状になっています。

■定型シール材

●メルトテープR（150㎜× 25m）

ドレン廻り、パイプ廻りなどで改質アスファルトの不足しやすい箇所に貼り付け、バーナーで加熱溶融して使います。



■テープ材

●バリテープH（100㎜× 10 m）

断熱露出防水を施工する際、ギルフォームの隙間から、バーナーの炎が入るのを防ぐために用います。

■接着剤

●レイコーセメント（18kg／缶）

断熱露出防水工法で、下地にギルフォームSを貼付けるための接着剤です。

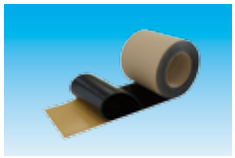
●RBセメント（20kg／缶）

断熱押え防水工法を施工する際に、防水層とRBボードまたはスタイロフォームRB-GK-Ⅱを固定するための接着剤です。

■増し貼り材

●ポリマリットGLテープ（180㎜× 8m）

片面粘着タイプのテープです。
コーナー･入隅部などの増し貼り、ALC板短辺部の補強に使用します。



※各材料の寸法は実際の製品と若干異なる場合があります。

■断熱材・絶縁材

●ギルフォームS

（605×910㎜）　厚さ 25・30・35・40・50・60㎜

硬質ウレタンフォームの両面にガラスマットを貼り合わせた、露出防水用の断熱材です。環境問題に十分配慮した「ノンフロン」の断熱材で、熱伝導率が極めて小さく、大きな断熱効果を得られます。

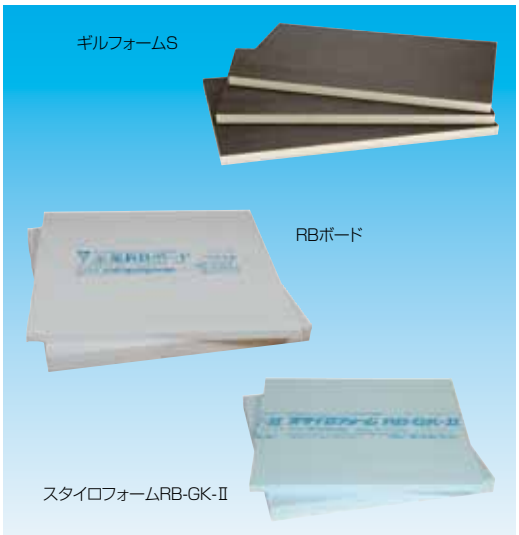
●RBボード/スタイロフォームRB−GK−Ⅱ

（910×910㎜）　厚さ 25・30・35・40・50・60㎜

連続押し出し発泡による硬質ポリスチレンフォーム製で「ノンフロン」の断熱材です。優れた断熱効果はもとより、高い圧縮強度と極めて低い吸水性を生かし、保護押え断熱防水用として、防水層の上に用います。

●絶縁クロス 1000（1m×100m）

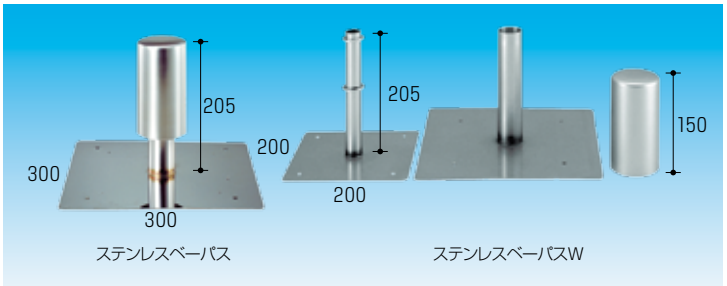
ポリプロピレンのフイルムヤーンクロスです。丈夫で施工しやすい保護シートです。



■ステンレス製脱気筒

●ステンレスベーパス/W

耐候性、耐久性にすぐれたステンレスを用いた平面部用の通気システム材です。通気効果と防水層の納まりを考えた構造になっています。二重式のベーパスWは断熱工法に使用します。（各1個／箱）



■改修用ドレン

●トルネードドレン 80/90

排水溝に取り付けた羽根により、効率的に雨水を排水することで、排水性能低下のデメリットを解消した改修用2重ドレンです。

筒外径80㎜/88㎜　各1個／箱

●リードレンC たて/横

改修工事用銅製ドレンです。既存のドレンの上にセットして、2重ドレンシステムとなります。

既存下地からの余分な水分を無理なく排出し、新規防水層との接続を確実にします。

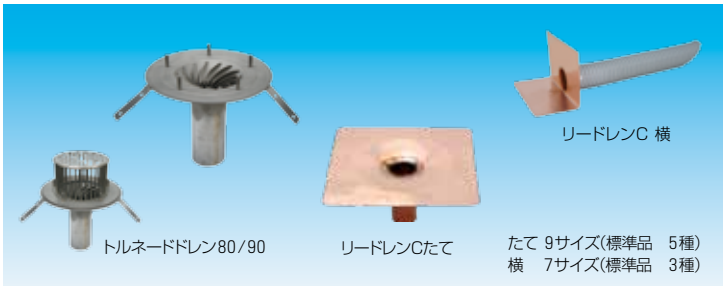
※寸法等詳細は別冊「リードレンC」カタログをご参照ください。

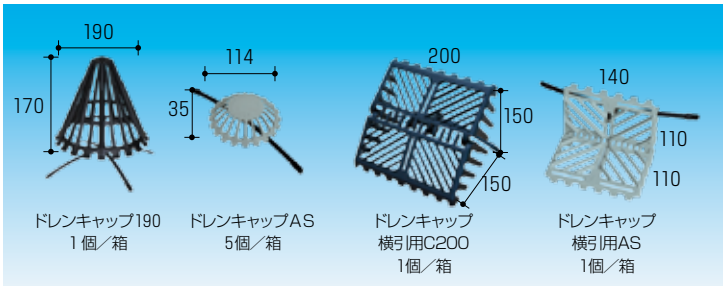
●ドレンキャップ 190/AS

アルミ製のたて引き用ドレンキャップです。

●ドレンキャップ横引用C200/AS

アルミ製の横引用ドレンキャップです。





ポリマリット防水の副資材

■プライマーほか下地処理材

水性プライマーAS
ゴムアスエマルション系プライマー

アスファルトプライマー
アスファルト系プライマー

アスファルトプライマーSS
速乾性アスファルト系プライマー

リベース
アスファルト系下地活性材

強力ガムシール
改質アスファルト系不定型シール材

リグレー
高分子エマルション系ポリマーセメントモルタル

リグレーエポ
速硬型水性エポキシ系樹脂モルタル

クールベース
ゴムアスエマルション系下地処理材

クールグランド
速硬型水性ゴムアスファルト系仮防水材

■高反射保護塗料

※各塗布量の下限値を確保することで本来の性能を満たすように設計されています。

SPファインカラー

塗布量：0.4～0.6kg/㎡

アクリル樹脂を主成分とするエマルション系高反射塗料です。防水層の温度上昇を抑制し劣化を軽減する効果を発揮します。

A-101 ライトグレー

A-122 マットシルバー

A-66 ライトブラウン

A-25 ミントグリーン

SPサーモコート

塗布量：0.8～1.2kg/㎡（2回塗り）

アクリル樹脂に骨材を加えたエマルション系高反射塗料です。防火性能に優れ、防水層を火災時の飛び火から保護する機能もあります。

TH-109 サーモグレー

TH-69 サーモアイボリー

TH-29 サーモグリーン

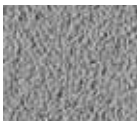
SPスーパーサーモコート

TH-1000 サーモホワイト

SPミッドカラー

塗布量：0.5～0.7kg/㎡

明度を下げることで照り返しによる眩しさを抑えつつ、反射効果を発揮するエマルション系塗料です。


I-103 ミッドグレー

I-27 ミッドリーフ

I-63 ミッドベージュ

I-33 ミッドチェリー

SPクリーンカラー

塗布量：0.5～0.6kg/㎡（1回塗り）
0.7～0.8kg/㎡（2回塗り）

土・砂・花粉・珪藻類等の自然環境に起因した堆積物の影響から、防水層表面を保護する効果を持つ骨材入り塗料です。

CL-109 CLグレー

CL-122 CLマットシルバー

CL-69 CLアイボリー

●各色は印刷のため、現物との差異がありますので、ご決定の際は色見本帳などをご参照ください。

製品一覧表

※各材料の寸法・重量は実際の製品と若干異なる場合があります。
※改質アスファルト系シートにつきましては、納品時に一定の割合で１ヵ所切断している製品（２ピース品）が混在しておりますので、ご了承ください。

	品　名	規　格
改質アスファルト系シート	ポリマリットキャップ	1m× 8m巻　厚さ：4.0㎜
	ポリマリット 40	1m× 8m巻　厚さ：4.0㎜
	ポリマリット 35	1m× 8m巻　厚さ：3.5㎜
	ポリマリット 25	1m× 8m巻　厚さ：2.5㎜
	ポリマリットST	1m× 8m巻　厚さ：2.3㎜（粘着層を含まない）
	ポリマリットGL	1m× 8m巻　厚さ：2.0㎜
	PMスポット 32	1m× 32m巻　厚さ：0.8㎜
改質アスファルト系テープ	メルトテープR	150㎜× 25m巻
	ポリマリットGLテープ	180㎜× 8m巻
補助材	ダンパーシート	1m× 32m巻　厚さ：0.8㎜（粘着層を含む）
	絶縁クロス 1000	1m× 100m巻
	バリテープH	100㎜× 10m巻　８巻／箱
	レイコーセメント ※２	18kg／缶
	RBセメント	20kg／缶
断熱材	ギルフォームS	605㎜× 910㎜　厚さ：25・30・35・40・50・60㎜
	RBボード	910㎜× 910㎜　厚さ：25・30・35・40・50・60㎜
	スタイロフォームRB-GK-Ⅱ	910㎜× 910㎜　厚さ：25・30・35・40・50・60㎜

	品　名	規　格
下地処理材 保護塗料	水性プライマーAS	17kg／缶
	アスファルトプライマー ※１	15.5kg／缶
	アスファルトプライマーSS ※１	16kg／缶
	リベース ※１	20kg／缶
	強力ガムシール ※２	330ccカートリッジ× 20 本／箱、20kg／缶、9kg／缶
	リグレー	18kg／缶
	リグレーパウダー	厚塗り用、薄塗り用　各 20kg／袋
	リグレーエポ	28kgセット（主剤：4kg／硬化剤：4kg／パウダー 20kg／袋）
	クールベース	クールベース：8kg／缶／クールベースパウダー：16kg／袋
	クールグランド	クールグランド：8kg／缶／グランドパウダー：12kg／袋
	SPファインカラー	18kg／缶
	SPサーモコート/SPスーパーサーモコート	18kg／缶
	SPミッドカラー	18kg／缶
	SPクリーンカラー	18kg／缶
	SPマルチカラー	18kg／缶　マルチグレー、マルチグリーン、マルチレッド

※１第２石油類　危険等級Ⅲ
※２指定可燃物　可燃性固体類

施　工

ポリマリット防水はプレハブ化されたアスファルト防水です。
改質アスファルトをバーナーで溶融して、防水層を成形していく施工の考え方は、熱アスファルト防水と変わることがありません。またポリマリット防水は改質アスファルトを用いることにより、施工の省力化が図られています。
工程が少なくなった分、よりていねいな施工が大切です。

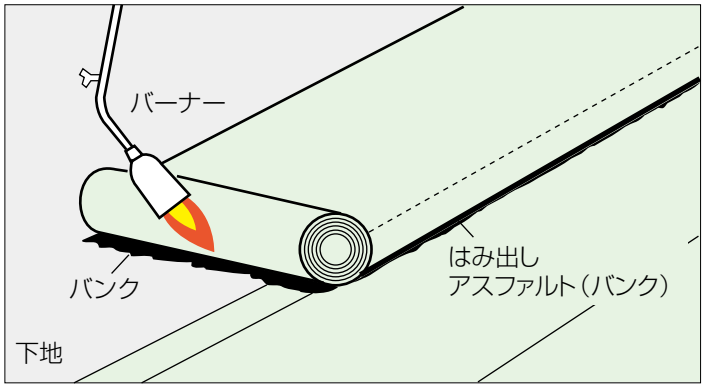
■ポリマリットのトーチ・オンのポイント

●加熱のポイント

トーチバーナーの炎はポリマリットのロールと下地の接する部分に集中させ、まんべんなく焙り、加熱します。

●アスファルトバンク

溶け出した改質アスファルトが、下地との間隙を埋めて接着させます。
加熱の目安は溶けた改質アスファルト（バンク）がジョイント部からはみ出すくらいを目安とします。



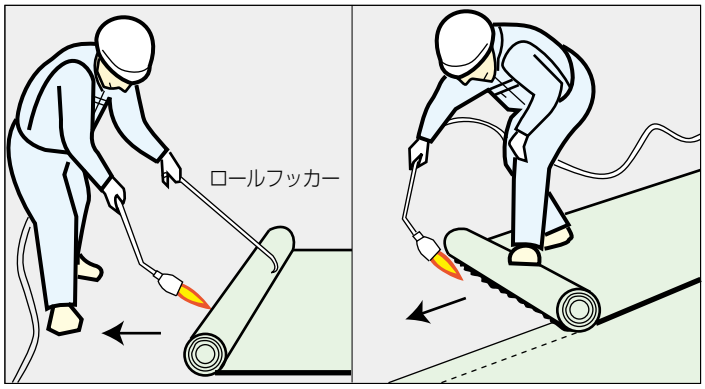
■後退法と前進法

後退法

ロールフッカーを使った、一般的な施工法です。加熱状態が確認できる利点がありますが、後退姿勢に安全上の注意が必要です。

前進法

足で押さえながら加熱前進する方法です。表面に足形がつく可能性がありますので、焙り具合の確認には十分注意します。



後退法　　前進法

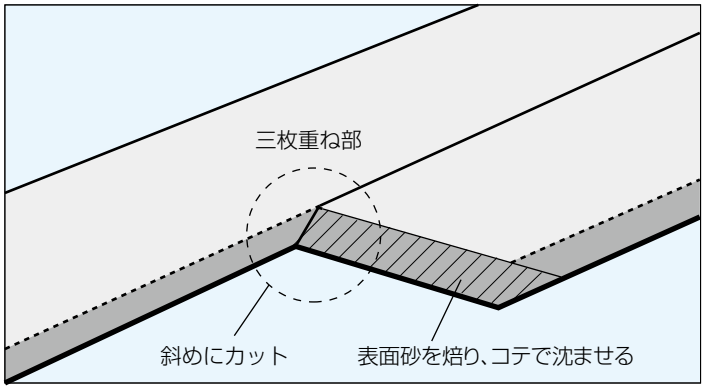
■ポリマリットキャップ、ラップ部の処理

●三枚重ね部

三枚重ねになる部分は、局部的に厚くなるのを防ぐため、中間にくるシートの隅をあらかじめ斜めにカットします。（他の厚手のシートもこれに準じます）

●長手方向のラップ

長手方向の接合は、必ず表面をバーナーで加熱し、コテを使って、砂を沈める前処理を行います。その後、上にくるシートの裏面を充分に焙りながら重ね合わせます。



施工者の方へ

●ポリマリットの施工については、ポリマリットの施工要領書に基づき、無理をしないよう、ていねいな施工をしてください。

■ポリマリットSTの貼り方

●敷き込み

パラペットのきわまで突きつけとなるように敷き込みます。（ただし、ドレン廻り、役物廻り、側溝部のように密着貼を必要とする部位は少し控えます）

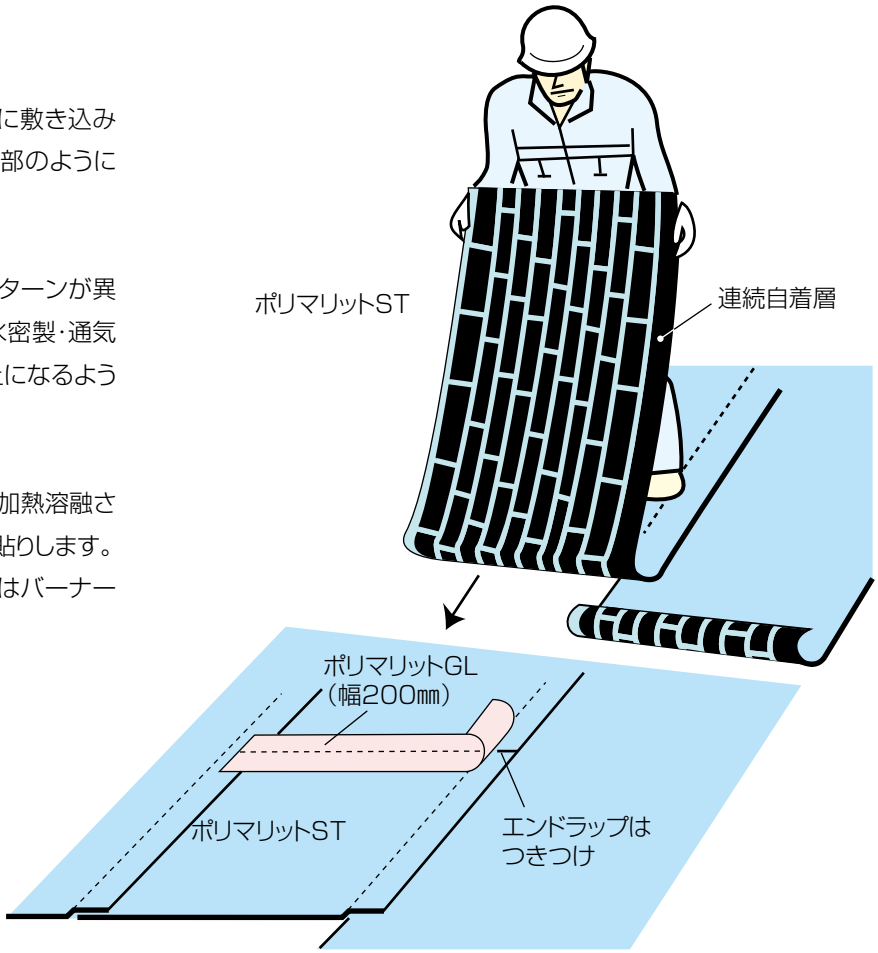
●サイドラップの処理

裏面のストライプ状自着層は、左と右でパターンが異なりますから、施工の際ご注意ください。水密製・通気性を確保するために、必ず連続自着層が上になるように貼り重ね、ローラーで十分に圧着します。

●エンドラップの処理

エンドラップは突きつけとし、STの表面を加熱溶融させながら、ポリマリットGL（200㎜幅）を増貼りします。

※寒冷地でのポリマリットSTの貼りつけにはバーナーを併用してください。



■ポリマリットGLの貼り方

●全面密着タイプですので、サイドラップ・エンドラップともに所定の重ね幅をとり接合します。
下地との間に浮きが生じぬよう、転圧ローラーで圧着します。

●2層目のシートとラップ部が、同位置で重ならないよう割りつけてください。

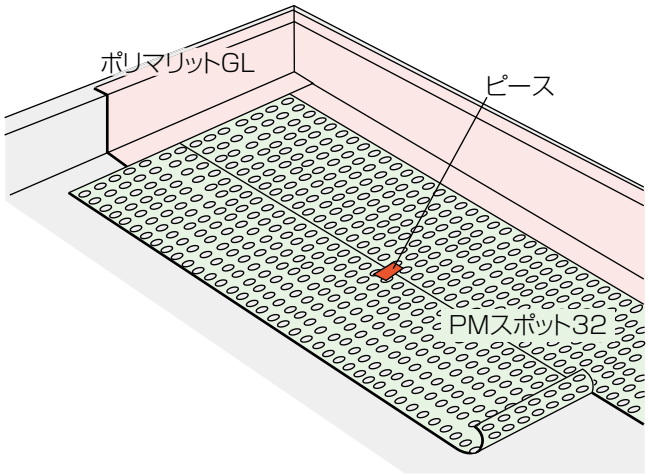
※寒冷地でのポリマリットGLの貼りつけには、バーナーを併用してください。

■PMスポット32の貼り方

●平面部にPMスポット32を敷きならべます。（フィルム面が下地側、粉面を上側です）

●PMスポット32相互は突きつけとし、隣接するシートとの通気をスムーズに行うため、GLテープのピース（短尺）を上からセットします。

●ドレン廻り、役物廻り、側溝部のように密着貼を必要とする部位は少し控えます。



施　工

断熱工法の注意点

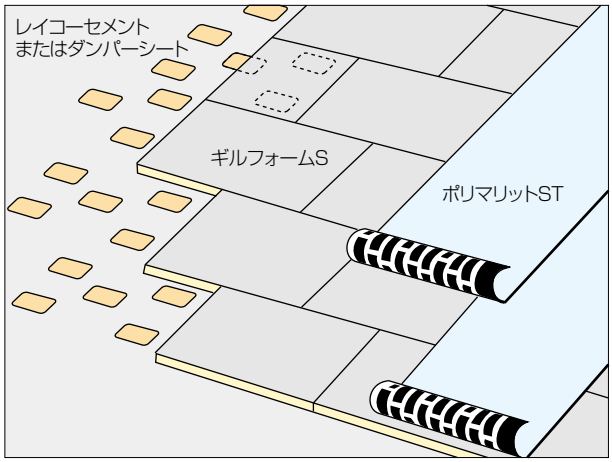
■露出断熱工法：ギルフォームSの取りつけ方

●ギルフォームSの下地への接着方法は、レイコーセメントによる点貼りと、両面自着シート、ダンパーシートによる貼りつけ方式の、2 方法があります。

●レイコーセメントの場合は塗布量（0.8kg/㎡）の確保を、ダンパーシートの場合は転圧に注意し、ギルフォームSの下地への密着性を高めます。

●不陸で浮きを生じたときは、ギルフォームSにカッターで背割りを入れてなじませます。

●貼りつけ方は「千鳥貼り」とします。（右図参照）



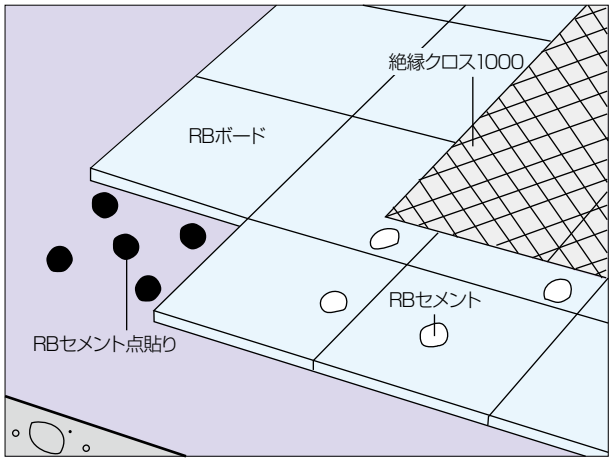
■押え断熱工法:RBボードの取りつけ方

●防水施工が完了した後、 RBセメントを用いてRBボードを貼りつけます。

●RBセメントによる貼りつけには 0.5kg/㎡使用し点貼りします。

●良くなじむようRBボードを圧着し、必要に応じて背割りを施します。

●RBセメントを点づけし、絶縁クロス 1000 を敷き込みます。



ギルフォームSの取りつけ方

工　具

●ポリマリットバーナーキット

国産トーチ工法用のバーナーです。軽量タイプで、日本人の体型に合わせた取扱い易さと、安全性の面で数々の工夫がこらされています。

●転圧ローラー600

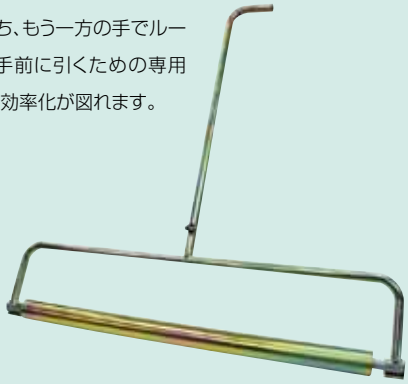
ポリマリットST、GLの転圧用ローラーです。プライマーなどの缶を車台に載せて用います。

●ルーフィングカッターDXⅡ

ポリマリットST・GLの本体を傷つけず、剥離紙のみを切るための特殊カッターです。自着タイプのシート加工には便利な工具です。

●トライアングルフッカー

片手でバーナーを持ち、もう一方の手でルーフィングのロールを手前に引くための専用フッカーです。施工の効率化が図れます。



●Pバーナーレギュレーター

バーナー用 LPGガスボンベとホース間に接続し、ボンベの圧力をポリマリットバーナーに適したレベルに制御します。

技術資料

ポリマリット防水の特性

ポリマリット防水の改質アスファルトシートは、強靭な合成繊維不織布を基材とし、その基材には改質アスファルトが含浸、およびコーティングされています。このコンビネーションが防水性能の高さと、優れた耐久性を発揮するのです。

■特殊改質アスファルトの耐候性（露出工法用）

防水層の劣化要因には、紫外線・熱・空気中の酸素やオゾンによるもの、および温冷や乾湿の繰り返しによるものなどがあります。そのため、特に露出防水層の場合には耐久性の高い材料が要求されます。
促進老化試験であきらかなように、ポリマリットキャップ、ポリマリット40・35に用いられる特殊改質アスファルトは、きわだった耐候性を有しています。

促進老化試験

試験方法／ASTM　D529ーDaily cycle A に準ずる

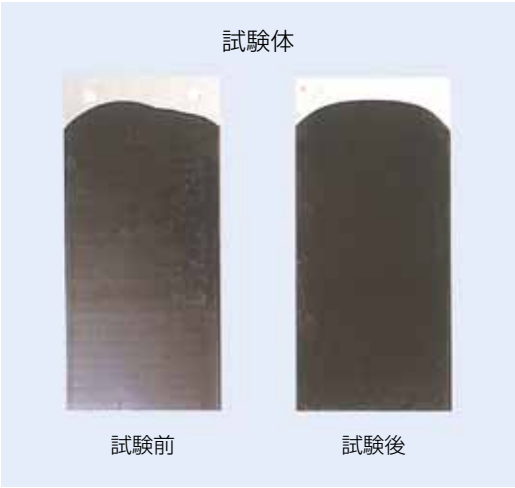
試験結果／表層に薄い亀裂紋様を生じるが、以後は進行が見られず、3000時間経過後の導通試験にても異常は認められない。

まとめ

ポリマリットに用いられる改質アスファルトは、過酷な耐久性試験の3000時間後も、なんら異状がありませんでした。

促進老化試験風景

促進老化試験結果



■ポリマリットキャップ・ポリマリット40の下地亀裂追従性

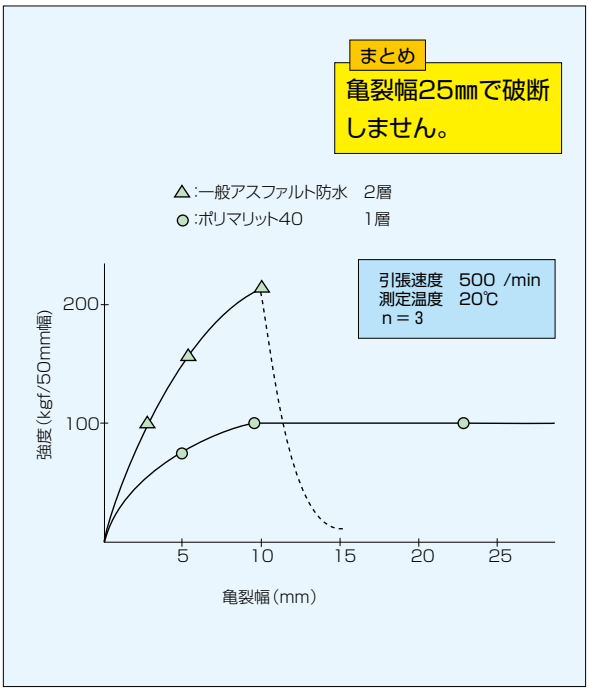
建物は常に動いています。とくに屋根は温度変化も大きいため、防水層はそれらの動きにどこまで追従するかが重要です。ポリマリット防水の改質アスファルトシートは伸びなどの特性に加え、下地クラックのような局部的くり返し運動に優れた特性をもっています。試験は亀裂部分を想定して、その箇所に起きる防水層破断応力への抵抗性をみたものです。

破断抵抗性試験

試験方法／スレート板下地に防水層を施工し、中央部の亀裂を一定速度（5㎜/min）で開いていき、防水層破断時の強度をその亀裂幅で測定する。

破断抵抗性試験風景

破断抵抗性試験結果



■ポリマリット防水層の耐疲労性

ポリマリット防水の改質アスファルトシートは、コンクリートの膨張・収縮や振動にたいし、防水層が致命的な変形や疲労破断を起こすことがなく、高い防水性能が維持されます。

耐疲労試験風景

試験方法／下地亀裂の幅0.5～2.5㎜の拡大・縮小を2分に1回の割合で繰り返す。

耐疲労試験結果

温　度	20℃	40℃	-10℃
繰り返し回数	200	200	200
合計（回）	200	400	600
ポリマリット防水層（仕様PT-10S）	異常なし	異常なし	異常なし

技術資料／露出防水における留意点

■ポリマリットSTの通気性能

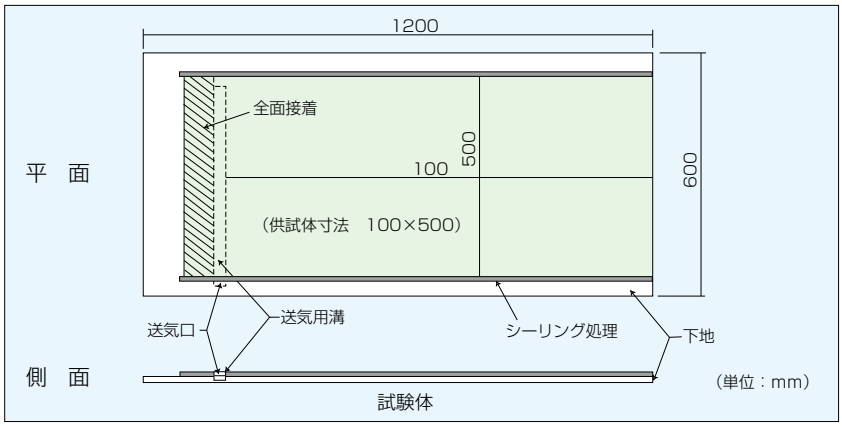
下地コンクリートに含まれる水分を、完全に除去した上で防水施工することは、実際上不可能です。
とくに改修工事では、押えコンクリートの上にかぶせる工法で新規防水層を施すと、防水層にフクレが発生するおそれがあります。そのため防水施工後の下地水分を、防水層の下で通気させ、外部に排出させる必要が生じます。
ポリマリットSTはストライプ状に配されたゴムアス自着層により、防水層は下地に部分接着され、その空げきは通気路として、スムーズな通気性能が確保されます。

試験方法

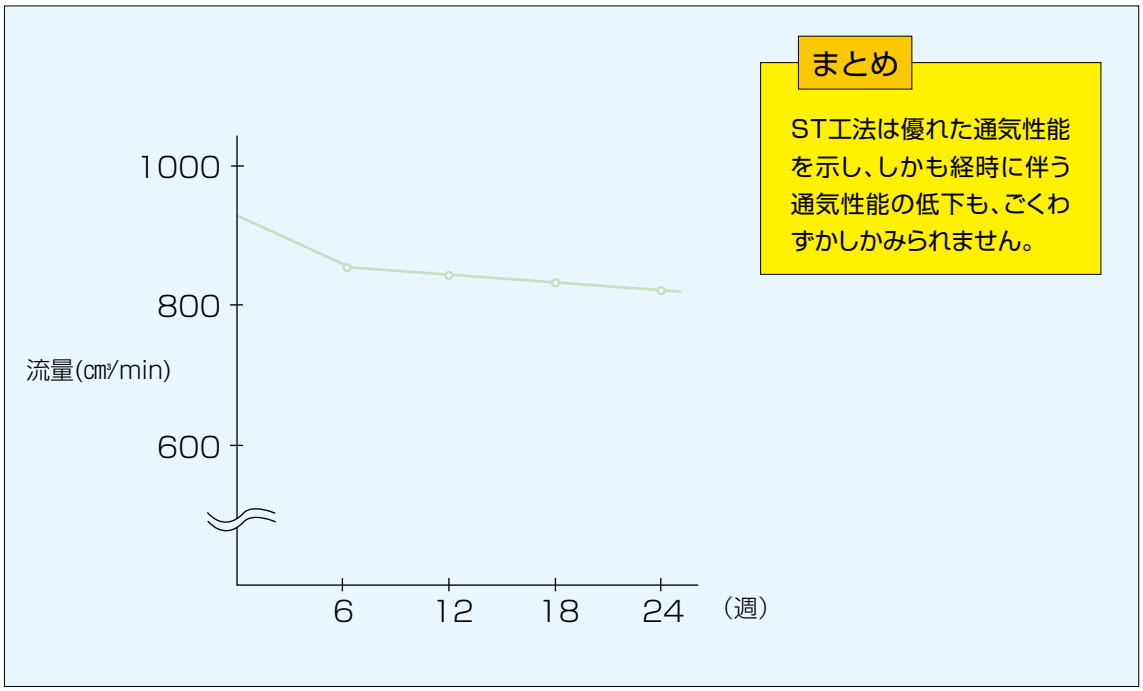
図のような試験体を試験装置にとりつけ、10㎜ Aqの圧力空気を試験体の送気口から送り込みます。微少流量計により1分間当たりの流出空気量を読みとります。

試験場における通気試験風景

試験体



通気性能試験結果



まとめ

ST工法は優れた通気性能を示し、しかも経時に伴う通気性能の低下も、ごくわずかしかみられません。

■水性プライマーASの特性

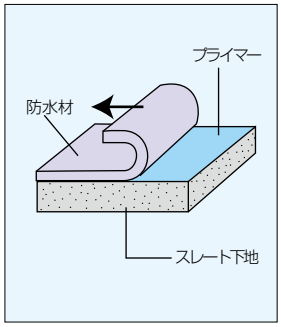
トーチ工法用シートのプライマーには、安全性を考慮して水性プライマーASの採用を標準化しました。水性プライマーASは通常のアスファルトプライマーと同等、もしくはそれ以上の接着力が得られます。この水性プライマーASが充分な接着力を発揮するかをみるため、180°ピーリングと垂直引張試験を行いました。

試験方法

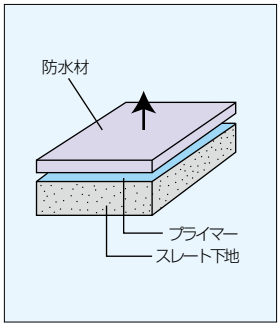
①180°ピーリング試験は、材料相互の接着性の良し悪しを調べる最も標準的な試験方法で、剥離させようとする外力に対抗する力を評価する方法です。

②垂直引張試験は、風飛びなど、防水層を浮き上がらせようとする力に代表される、防水層に垂直方向に加わる外力に対抗する力を評価する方法です。

180°ピーリング試験



垂直引張試験



試験結果（試験温度 20℃）

試験項目		ポリマリット 40	ポリマリットGL（自着層付シート）
180℃ピーリング試験	強度N/25㎜	86	52
垂直引張試験	強度N/㎠	25	13

【露出防水における留意点】

露出防水においては下記のような状況が見られる事がありますが、防水性能に支障はありません。

・ルーフィングのジョイント部からはみ出したアスファルトに生ずるひび割れ
・下地の含有水分による防水層のふくれや、砂付ルーフィングの砂粒の隙間に入り込んだ湿気による表層のふくれ
・雨水が滞留しやすい箇所に粉塵、泥、花粉、黄砂等が堆積し、乾燥収縮する事で生ずる表層クラック
・砂付ルーフィングに付着している余剰砂の脱落
・砂に含有される鉄分による錆

※保護塗料は経年によりひび割れや減耗を生じます。これらの現象は防水性能に支障を及ぼすものではありませんが、保護塗料は定期的な塗り替えをご推奨します。

※端末シールは経年によりひび割れや減耗を生じます。納まりが適切であれば、これらの現象は防水性能に直ちに支障を及ぼすものではありませんが、端末シールは定期的な打ち替えをご推奨します。

ポリマリット防水をご採用いただいた方へ
（ポリマリット防水の取扱いと、メンテナンスのお願い）

ポリマリット防水は、改質アスファルトシートを用いた防水システムです。指定された範囲内の全平面部と、設計図書に示された立上り面の防水機能をカバーしています。
外壁およびパラペット天端や笠木部、また架台類・貫通物やトップライトなどには防水層が施されていません。
防水層のない部分は、別途、点検とメンテナンスを実施してください。

■防水施工中のご注意

●防水工事の現場および足場や資材置場には、危険ですので立ち入らないでください。
●有機溶剤を使った防水材料や、プロパンガス関連の機器および工具には、近寄ったり手を触れないでください。
●施工中は臭いや煙が発生します。またプロパンガス燃焼の音がします。ご承知ください。

■露出防水の取扱い

●露出防水は原則として非歩行屋根です。専門家およびメンテナンス担当者以外は、防水層上を歩行したり、物を置かないでください。
●防水層の上を歩行する場合は、ゴム底など、軟らかい履きものを使用してください。
●鋭利な物で防水層に傷をつけ、または物を落としたり、引きずったりしないでください。漏水します。
●防水層の上に溶剤・薬品類や油をこぼさないでください。防水層が著しく劣化します。

■押え防水の取扱い

●防水押えの上で直接、火を燃さないでください。
●防水押えの上に直接客土したり、草木の植栽を行わないでください。
●押えコンクリートに代えて、コンクリートブロックなどを敷設した場合は、露出防水の取扱いと同じです。
●防水押えの目地に草などが生えた場合は、早めに抜き取ってください。

■メンテナンスのお願い

●露出防水の仕上げ塗料は、定期的に専門技術者の点検を依頼し、必要と判断された場合は、同一塗料で塗り替えてください。
●仕上げ塗料に微細なひび割れや、剥離が生じることがありますが、防水機能には何ら影響ありません。とくに程度が激しい場合はご相談ください。
●防水層の端末やドレン周辺のシールが切れ（割れ）た場合は、早めにご相談ください。
●防水層の点検・補修および仕上げ塗料の塗り替えは、専門技術が必要です。弊社または、工事をした防水施工業者に依頼してください。工事は有償となります。
●ドレン周辺は定期的に点検し、土砂・草などを取り除いてください。

全国防水改修工事業団体連合会
http://www.bousuikaisyu.com

北海道防水改修事業センター　北陸防水改修事業センター
東北防水改修工事協同組合　関西防水管理事業協同組合
関東防水管理事業協同組合　中国防水改修事業センター
東海防水改修工事協同組合　九州防水改修工事協同組合

田島ルーフィング株式会社
https://www.tajima.jp

東京支店　〒101-8579　千代田区外神田4-14-1　TEL 03-6837-8888
大阪支店　〒550-0003　大阪市西区京町堀1-10-5　TEL 06-6443-0431
札幌・仙台・北関東・千葉・横浜・多摩・金沢・名古屋・広島・福岡

2019.12 KM 12,000